（様式１－１）

県立古河中等教育学校【総合的な学習の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な学習の時間の第１の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
(2)　実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3)　探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の教育目標

豊かな心（寛容の精神、謙虚さ、思いやり）と確かな学力を兼ね備えた次代のリーダーの育成
・６年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。
・科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。
・異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

(1)　弛まぬ学ぶ力
主体的態度、協働的態度、より深く学ぶ態度の育成
(2)　発信力、論理力
思考力、判断力、表現力の育成
(3)　科学的考察力
科学的な見方・考え方の育成
(4)　創造力、探究力
言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成

総合的な学習の時間の学習評価

(1)　学び合いに積極的に参加し主体的に活動している。
(2)　論理的で筋道立ったレポートや発表ができる。
(3)　科学的プログラムの体験や作品作成に積極的に臨んでいる。
(4)　生徒自身で課題を設定し解決している。

生徒の実態

〇明確な自己目標をもち、向学心や向上心の高い生徒が多い。
〇素直な性格で、的確に物事を捉える力があり、受容性に富む生徒が多い。
〇広範囲から通学しており、様々な地域性を有している。
〇部活動の加入率が高く、文武両道の確立に努力する生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
〇配慮を必要とする生徒への指導

・学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮（個への支援と教育的ニーズへの対応）。
・生徒の発達の段階に応じた柔軟で、臨機応変な対応。
・面談やアンケートにより生徒理解に努め、子供たちの実態に即した指導。
・関係機関や外部専門家等との連携、また緊急時の支援体制の整備。

目指す生徒の姿

〇広い視野と柔軟な思考力、豊かな感性を備え、新たなものを創造（Creation）できる生徒
〇さまざまな分野への好奇心や探究心にあふれ、自ら進んで真理の追究や課題の解決に挑戦（Challenge）できる生徒
〇高い目標と強い意志をもち、地域や日本、国際社会の発展に貢献（Contribution）できる生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

【1年次】
探究活動:身の回りの事柄に興味・関心をもち、問題・疑問点を発見し、調査・研究を重ねて最良の解決方法を見い出す。
・探究課題１：「身近な疑問の解決」
・探究課題２：「博物館・科学館訪問まとめ」
・探究課題１、２について、個人及び協働で活動し、情報や資料の整理・分析やレポート作成方法を学ぶ。
→資質・能力：(1)情報収集、活用能力　(2)まとめ、発表能力　(3)課題共有、協働、解決能力

【2年次】
探究活動:世の中の事柄に興味・関心をもち、問題・疑問点を発見し、調査・研究を重ねて最良の解決方法を見い出す。
・探究課題３：「科学研究・研究所訪問まとめ」
・探究課題４：「環境問題と SDGs について考える」
・探究課題３、４について、個人及び協働でレポートを作成し、多様な発表方法を学ぶ。
→資質・能力：(1)情報収集、活用能力　(2)表現力と発信力　(3)科学的見方・考え方

【3年次】
探究活動:自国文化や地域課題について興味・関心をもち、問題・課題点を発見し、調査・研究を重ねて解決方法を見い出すとともに、自分の将来について深く考え発表することにより、今後の進路選択につなげる。
・探究課題５：「自国文化理解」
・探究課題６：「地域課題の探究」
・探究課題７：「マイドリームスピーチ」
・探究課題５～７について、個人及び協働でレポートを作成し、多様な発表方法を学ぶ。
→資質・能力：(1) 協働性と企画力・実行力　(2) 論理的思考力　(3) 自己理解能力　(4) 表現力と発表能力

学習活動、指導方法等

【1年次】
・身の回りの疑問から課題を見つけ、グループ活動においてブレインストーミングの手法などを学びながら、課題の解決を試みる。
・施設見学（東京国立博物館・国立科学博物館）に関する分野における課題を見つけ、事前学習を行う。見学後に新たな課題について解決に向けて活動するとともに、レポートの作成方法を学んで発表を行う。
・計画の立案や情報収集などはグループで協力、分担し、課題解決に向けて協働して行う。

【2年次】
・グループ活動において環境問題と SDGs について話し合い、課題を決定する。グループ内で話し合ったり、他のグループの意見を聞いたりして、自分の考えをまとめる。プレゼンテーションソフトを使ってレポートを作成し、発表を行う。
・訪問する研究所について情報を収集し、疑問点や興味をもった事柄についてグループで話し合い、テーマを設定する。研究所の見学や講話を通して、課題解決を試みる。まとめや発表を通して活動を振り返り、新たな課題の発見へとつなげる。

【3年次】
・自国文化のよさや特徴について話し合い、疑問や興味をもった事柄についてテーマを設定する。ＮＺ海外語学研修等を通して体験した見聞を記録し、分析・考察を行う。プレゼンテーションソフトを使ってレポートを作成し、発表を行う。
・地域活性化につながる地域課題の解決について、地域イベントに参加しプロジェクトを設定する。地域や関係者に解決策を提案し実行する。
・自分が将来どんなことを成し遂げたいか、またどう在りたいかを考え、目指すべき方向を周囲に発表することにより自己理解を深め、今後のコース選択につなげる。
・スピーチの構成や手法を学び、プレゼンテーションソフトを使ってレポートを作成し、発表を行う。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

〇 プロジェクト推進部と Σ ソフィア・プロジェクト推進委員会（Σ ｱｶﾃﾞﾐｱ、Σ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、Σ ｻｲｴﾝｽ、課題研究委員会）による企画立案、運営
〇 プロジェクト推進部、Σ ソフィア・プロジェクト推進委員会、企画委員会（管理職、校務部長、年次主任）及び各教科主任との連携、調整、情報交換
〇 少人数指導やティームティーチング等による個々に応じたきめ細やかな指導の実践、及びグループ活動や異年齢交流活動等による協働的な学びの実践
〇 企業、研究機関、大学等との連携、協働による先進的な教育活動の展開
〇 PTA や地域社会との連携、協働による開かれた学校づくりの推進